幼兒童謠の新作を選びて

葛原しげる

東京からの放送のうち、幼兒の時間（午前九時四十五分からの）を、時々きいて、そのおはなしの多くは、幼稚園の先生方らしいのが、まことにお上手なので、午後六時からの子供の時間の、童話の先生方のに比して、時に、却つて、優れてゐるのもあつて、まことに〳〵めでたくも悦んでゐること同時に、何かに散見する創作童話の中にも、ごうして〳〵、立派な作が、同じく、幼稚園や、今でいへば國民學校の先生方の中から、生れてゐるのを見て、同じ樣に、まことに〳〵めでたくも悦んでゐる私は、童謠こそは、幼兒に一番よく接してゐる若きお母樣の世界からこそ、生れて來べきである事を信じて年あり、しかうして、まことに少數ながら若き母たる童謠作者が、ある事を、非常に悦んでゐるのですが、それこそ共に、健全にして、純眞にして、溫雅なる幼稚園の先生方の間からも、たしかに、幼兒童謠は、生れて來なくてはならぬことを、機會毎に、話しもして來てゐるのです。そして、此度の多くの作品の中からも、私は次の數篇を、聲を大にして、推奬したいこと考へて、高點をつけました。

「眼」――その昔も昔、大正の初期に、「お父樣ねんね」といふのを作つて、本居長豫氏の作曲で歌はれたもので、取扱つた內容でもあるのですが、それは晝寢をしてゐるお父樣の眼鏡をのぞいたら、私が、映つてゐたので、お父樣は、私の夢をみて、ねんねしていらつしやる、といふのでした。これは、眼鏡でなくて、眼そのものに映る姿に、驚いてゐるのです。この不思議は、この驚異は、幼兒にこつての神祕であります。そして、ボチにまで及んでゐるのを悦びます。

「なあぜ」――夜の空には、お月樣こお星樣こが、いつも、いろ〳〵の話題を提供し、多くの謎をもちかけてくれます。世界中、どこの國でも、月こ、星こは、大人の世界こ同じに、幼兒の世界のものであります。これは、やゝ、理窟がかつてもをりますが、第一節の疑―淋しみ、を、第二節で、解いて、賑やかに、まとめたのです。しかも、「ネ、ネ、なあぜ」に對して「ネ、ネ、さうね」の手法は、にくいほど鮮かです。

「植木やさん」――何でもないことですが、すなほな、正直な、それこそ、純白無汚なる幼兒の心の壁には、どんなに、うすい墨の色も、どんなに、うすい朱の色も、そのまゝに色を殘します。又、靜平なること山上の湖の如き幼兒の心の水面には、どんなに小さな雲の一片も、どんなに小

さな鳥の影も、うつりますし、そよ〳〵の風の流れも、小波をたてますの〳〵同じく、幼兒に〳〵つては、大人の世界の何でもない事が、何でもござころか、大變な事柄〳〵して、その心に、色をつけ、波を立たせます。この作の內容は、大人に〳〵つては、下らない事かもしれませんが、おちて來る枝を拾つて、空を、見上げた、しかも、そうつ〳〵見上げたといふデリカシイは、實に、幼兒の心です——すなほな、正直な、純白無汚な心です。その心からでなくては生れない作です。

「おまつり」〳〵「盥のプール」〳〵は、〳〵りたて〳〵申す事はありませんが、前者には、

赤いかつこで行きませう
母さんも一しよに行きませう

〳〵ありますのは、特に、近頃、私が、私の擔任の幼兒達に、やかましく申して直させてをりますだけに、氣にかゝりまず。お宮や、お寺や、お墓へは、「行く」のではありますが、「まゐりませう」でなくてはなりませぬ。また、後者に、

サラ〳〵冷たい如露の瀧
かぶれば涼しい風が吹く

は、少し、ませてゐるのですが、そして、ござかに、童謠ばなれのした句もしますがしかし、すて難くて、私は、强く心をひかれました。

終に、全體について申しますと、幼兒童謠に、長いこと〳〵、暗いこと〳〵は大禁物です。そして、面白くなくてはなりません。その上、他愛もないやうでも、實は宇宙の眞理、また神祕に觸れた內容でありたいものです。又、作曲されることも考へて見なくてはなりませんので、幼兒向に、明快な曲趣の生れて來る素地がなくてはなりません。

私は、かうした狙の下に、選を進めましたので、右の數篇を特に悅んだ次第です。作曲のこと〳〵、幼兒向〳〵いふ事〳〵を重んじなければ、他に、推奬したいものが、幾篇もあつたのです。〳〵もすれ、幼兒教育者の中から、もつと〳〵多くの幼兒童話〳〵共に、幼兒童謠が生れる事を、本誌の最近二回の募集だけに見ても、確信しますので、私は、本誌が、每月、募集して下さるならば、少數でもの熱心な作者を、每月、世に紹介しえて、幼兒教育の世界は、ござなにか幸であらうかと、樂しみます。（一六、四、二六）

× × ×

× × ×